

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(2/8)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
森林総合産業特区 (下川町)	4.0	4.4 進捗度 ・素材供給量 91% ・林業・林産業生産額 98% ・林業・林産業従事者数 96% ・林道路網密度 100% ・熱エネルギー自給率 140% ・電力エネルギー自給率 100%	3.7 規制の特例等 ・カタピラを有する林業機械の舗装道走行等 財政支援等 ・高密度連絡路網整備事業等 地域独自の取組 ・私有林整備支援事業 ・林業・林産業振興事業 ・地域材産業振興資金利子補給事業等	4.0	・地域資源をフルに活用するという視点を一貫させた戦略とエネルギー自給のまちづくりというコンセプトは高く評価することができる。 ・バイオマスボイラーが公共施設に概ね行き渡ったということが驚きであり、今後地域暖房やバイオマス発電が十分展望できる点は高く評価できる。 ・地場の林業・林産業を維持するためにも素材以外の生産もさかんにして、需給変動を抑える必要があり、森林バイオマス発電などの事業の計画的な推進が求められる。 ・雇用創出は地域経済にとって最重要課題であり、林業・林産業従事者数を指標としている点はよい。従事者を増加させたことは評価に値する。 ・全体としては、ほぼ順調な進捗度合いだと評価できる。財政支援の活用や、地域独自の取組についても、活発であると評価できる。 ・熱エネルギー自給率については、実績値が目標値を大きく上回っており、既に平成32年度目標を超えており、目標値見直しが必要ではないか。